の精華を畫家のマドンナに於て如實に見出すのである。現實に愛人が存在してゐてもゐなくてもそれは問題にならない。

新著紹介

○實驗礦物地質學(I) 福田連著　菊版三六二頁＋一六頁＋一七頁　四月　東京代々木昭晃堂發行　定價三圓九〇錢

出づべくして出なかつた實驗と實物の觀察とによる鑛物學及地質學の學習書が刊行されたのが本書である。第一頁から對稱の說明にかうある。「野球場は二壘と本壘とを結ぶ線上に對稱面が一つあるが、庭球場には縱と横に二つの對稱面が有る。庭球場の對角線は其の場内を相等しい二部分に分つけれども對稱面では無い。」この調子で鑛物學の教課を進ましてゆくならば著者福田理學博士の教鞭を執つてゐられる成蹊高等學校の生徒の樣に、どの高等教育並に中等程度の學校でも生徒が熱心に興味ある教授を受け得られる筈である。本書を通觀すると近代の鑛物學に必要である事項例へば結晶の投影法、蝕像、固溶體のことが詳しく判り易く說いてある。設問が一々あつて學習には都合がよく、殊に大々的に良いことは薄片礦物檢索表と結晶面角一覽表とのあることでこれは獨り學習者に便なる計りでなく研究者に取つて種々の原書をあさる手數を省いて呉れる。尤も之等の諸表は別に實驗礦物判定表なる一書となつてゐるさうである。著者は本書を「中等及び高等程度の學生實驗書として、また此等の學校の先生や、小學校の先生の參考書として役立つ」爲めに著されたのであるが、もし本書によつて鑛物學を學べば檢定試驗合格は請合ひである許りでなく一生涯鑛物學の研究家乃至は愛好者になつて了ひさうである。たゞ多くの鑛物學地質學書の第一版がさうである樣に本書にもかなりの誤植が見受けられるのは遺憾である。本書第二編の地質學の部が出版されるのを冀望するのは日本地學界の等しく感ずる所であらう。(中村)

○日本鳥瞰圖 西村健二編　第三輯　東京淺草向柳原東京都成館發行　昭和七年六月　五枚一組　一枚七十錢

本圖の第一第二兩輯に就いては本誌六月號に紹介して置いたが今その第三輯五葉が出版された。曰く北アルプス、曰く有珠火山と洞爺カルデラ湖、曰く櫻島と鹿兒島市、曰く屋島臺と五劍山、曰く大分別府地方で、前輯と同じく火山地方が多い。この五葉中北アルプスは描畫細密であつて壯大な山容を充分に看取することが出來るが、數年前某氏の地形圖より描いた鳥瞰圖に比して筆勢が强くない。櫻島に於ては新熔岩を色で現はした爲めに火山活動の有樣が明瞭に窺はれる。前輯に就いて述べたと同じく此等五葉のものは地學教課用としても地學愛好家の觀賞用としても絶好のものである。但し新

しき施設例へば屋島のケーブルの如き、學術上著しい建造物例へば別府の地球物理觀測所の如きものが描かれてないのは瑕瑾であつて、かゝる地方的な人目を惹く人文地理的のものも地形描寫を損なはざる程度に於て描出することは中等程度の教課用としては必要だと思ふ。次輯にはかゝる要意あるものをも公にされんことは一般地理愛好家の希望だと云ひ得る。（中村）

○石炭埋藏量調査概要

商工省鑛山局　昭和七年三月　非賣品

本書は昭和四年度より昭和六年度に至る三ヶ年間に亘り調査されたる概要を輯錄したるものである。全篇を二章に分ち、第一章には炭田の地質、炭種、用途、埋藏、産額及需給、亞炭鑛業等を記し、第二章には各論として北海道、本州、九州の諸炭田の地質及炭量等を記載さる。炭量は本邦内地に於て既採掘十億二千百萬瓲、不可採掘十億五千萬瓲、未採掘百六十六億九千百萬瓲と計算さる。未採掘炭量中、現存五十九億六千萬瓲、推定四十億四千六百萬瓲、豫想六十六億八千五百萬瓲であるといふ。現存炭量中では無煙炭及煩石七億二千萬瓲、瀝青炭百五十五億瓲、亞炭四億七千萬瓲と推定されて居る。以上は理論炭量であつて現在の技術によつて實收し得べき炭量は内地合計にて略六十五億瓲とすべきか。而して炭量計算の基礎は厚さ一尺以上の炭層は大體疏水準下四千尺迄採掘し得るものとして計算されてある。日本の如き地質の國で四千尺の深部まで全炭坑を採掘するといふことは經濟的には困難な場合が起るかもしれぬ。（上治）

○地形圖の讀方と其利用

鈴木猶吉著　古今書院發行　定價一圓八十錢

著者は陸地測量部に於て地形測量をやつてゐる篤學の士である、測量部の地圖のプロゼクション、圖式、水平曲線、地性線、地形學的地形、火山等の問題をすべて地圖によつて之を理解せしむることをつとめてある、最後に説明圖式や圖上の各種測定と經緯線長一覽表がつけてある、地形學を學ばんとする人には誠に簡明にして要を得た好著であると信じ一般に之を推薦したい。（藤田）

○滿蒙を正視して

大連中等學校滿蒙研究會　非賣品

大連の中等學校に奉職する十四の地歴の教員方の努力の結晶である。滿蒙事變を世界人に向つて正解さすに先つて自分たちが滿蒙を正解すべきであるとして滿蒙の重要性や、滿洲事變の原因や經過をのべてある。（藤田）

雜報

○滿洲錦州市街（圖版第二版解説）

遼西の大市場である錦州（錦縣）は遼河大平原から分れた小凌河中流の東西に延びた盆地の中にある。人口七萬六千。滿洲事變の初期から一層有名になつて中國の歐洲使節が此の大邑の存在を知らなかつたと